



11/14 NST 学習会の報告です。参加者 17 名でした。

摂食嚥下評価における薬の影響について薬剤師山田さんよりお話しいただきました。

【嚥下運動の5モデルにおける薬剤の影響】

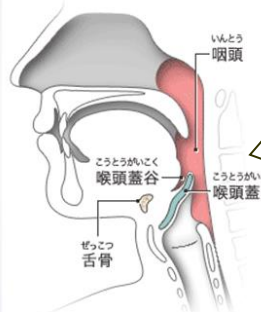
先行期…抗不安薬、抗痙攣薬、抗リリ作用、抗ヒスタミン作用を有する薬剤
⇒傾眠、認知機能の低下（先行期の障害）

準備期…抗精神病薬、制吐剤などのドパミン拮抗作用のある薬剤⇒薬剤性ジスキネジア
抗リリ薬、利尿薬、抗鬱薬、抗ヒスタミン薬、抗精神病薬、抗癌剤等⇒薬剤性ドライマウス

咽頭期…抗リリ薬、抗鬱薬、Ca拮抗薬⇒咽頭筋の収縮力を低下させる

食道期…筋弛緩薬、Ca拮抗薬⇒稀に下部食道括約筋筋力や食道蠕動運動を低下させる

嚥下の過程で下咽頭内に薬剤が残留してしまった様子



嚥下能力が低下している患者さんにとって、食事の内服も口腔内の残留や誤嚥のリスクがあります。普段接している患者さんの口腔内はどのようになっているでしょうか。のぞき込んでみましょう。



喉頭の上下運動と咽頭の収縮に問題があり、喉頭蓋谷と呼ばれるくぼみや食道の入口に薬剤が落ち、そのまま残留してしまうことがある。

さらにそれが進行して穿孔を生じる可能性もある。

薬の副作用による食欲低下や嚥下機能低下だけでなく、薬の物性がその患者さんにとって適しているかどうかについて評価していくことも大切なことです。

次回の学習会は **12月12日 第2水曜日 17:30~**です。

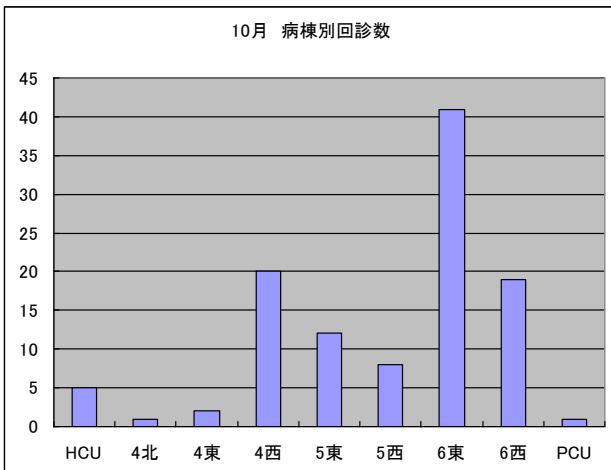
テーマ「摂食・嚥下機能評価シリーズ③（口腔ケア）」 講師：歯科衛生士佐藤美智代さんです。どなたでも参加できるオープン形式ですので、お気軽にお越しください。



10月分の実績です。

	TPN(延べ人数)	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
10月	128	355	3	41	109

TPN…中心静脈栄養（高カロリー輸液）
EN…経腸栄養（経鼻・胃ろう等からの経管栄養）



★NST 対象患者さんは、毎週の体重測定と SGA の入力をお願いします。

★OHAT テスト導入開始しています。テスト導入の対象病棟にてわからない点や困っている点などありましたら、リンクナースまたは NST 事務局までご相談ください。

文責：NST 専従 管理栄養士 谷岡 恵